

カンボジアにおける日常的な鉄強化魚醤摂取による貧血改善・予防効果

中西 由季子*^{1), 2)}, Philippe Longfils²⁾, Sol Sowath³⁾, Visith Chavasit⁵⁾, Didier Monchy⁶⁾,
Heike Weinheimer⁷⁾, Chan Theary⁴⁾, Klaus Schuemann⁸⁾

(¹⁾ 昭女大・院 機構, ²⁾ ILSI Japan CHP, ³⁾ GTZ, ⁴⁾ RACHA, ⁵⁾ Mahidol Univ, ⁶⁾ Pasteur Inst,
⁷⁾ SAM, ⁸⁾ ZIEL)

2000年および2005年に行われたカンボジアCDHSによると、乳幼児の貧血罹患率は、それぞれ63%、61.8%であった。カンボジア政府の栄養改善計画(CNIP2003-2007)によると、2007年までに42%まで低下させることを目標としているが、これまでのところ成功していない。食事によって欠乏栄養素の補給ができ、継続的補給が期待できる食品栄養強化が欠乏症の改善に効果的であると考えられる。

【目的】カンボジアにおいて家庭で日常的に使用される主要な市販調味料である魚醤に着目し、日常的な鉄強化魚醤の摂取が貧血改善に及ぼす影響について調べた。

【方法】成長期である学童・生徒(6歳~21歳)のうち血中ヘモグロビンと血漿フェリチンから鉄欠乏性貧血がみとめられた140名を対象とし3グループ(魚醤、FeSO₄+Citric acid強化魚醤、NaFeEDTA強化魚醤)に分けた。魚醤あるいは鉄強化魚醤を1日1回、17週間(6日/週)、10mgFe/10mlを粥とともに提供した。身長・体重・血中ヘモグロビン・血漿フェリチン・血漿CRPを試験開始時および終了時に測定した。

【結果】対照である魚醤を摂取した群ではヘモグロビン濃度が開始時に比べ終了時には有意に低下していたが、鉄強化魚醤を摂取した2群では、有意な差は認められなかった。一方、フェリチン濃度は、対照群では、変化がなかったが、鉄強化魚醤を摂取した2群では、それぞれ有意に増加していた。CRP濃度は、開始時、終了時においてどの群においても変化はなかった。鉄化合物の種類によって体内鉄に及ぼす影響に相違は認められなかった。

【考察】鉄強化魚醤のカンボジア国内での市販化は、鉄欠乏性貧血の改善・予防に有効な戦略の一つとなりうる。